

教員・教育担当者養成課程 介護コース カリキュラム

1 本コースの位置づけ

本コースでは、卒業に必要な必修科目が、厚生労働省規則等に定められた「介護教員講習会」修了に必要な要件を満たすため、卒業とともに介護教員講習会修了証を取得できます。

また、教育担当者として必要な人間理解を基盤とした幅広い知識や技術を学ぶことができます。

2 本コースの特徴

本コースでは、介護教員または施設等での教育担当者として必要な知識・技術を学びます。

(1) 平成30年度からの介護福祉士養成課程新カリキュラムに対応し、次の5つの観点を重視しています。

- ① チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充
- ② 対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上
- ③ 介護過程の実践力の向上
- ④ 認知症ケアの実践力の向上
- ⑤ 介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上

(2) 授業での学びは、グループワークなどを活用して振り返ることにより理解を深め、学びをより多角的なものとし、介護教員または施設等での教育担当者としての視野を広げます。

3 授業時間・日程と修了要件

(1) 授業時間・日程（予定）

	必修科目
全科目	402 (301.5) 時間※
授業時期	令和7年4月～翌年3月

※実践教育センターでは、1時間を45分として授業を実施しています。

() 内は、1時間=60分換算した時間数を表しています。

(2) 科目区分

必修科目：卒業するために必ず履修しなければならない科目です。

(3) 修了要件

必修科目の全科目について、当該科目授業時間数2/3以上の出席と学修結果の評価により、科目履修認定を得ることが必要です。

4 カリキュラムの概要

【教育目的】

介護教育に必要な知識・技術を習得し、豊かな人間性を養い、介護教育に貢献できる人材を育成する。

【教育目標】

- 1 介護教育に必要な知識や技術を学び、効果的な教育活動を展開できる。
- 2 人間の本質に対する認識を深め、主体的に人間関係を展開できる。
- 3 介護の本質、介護福祉学の理念を探究し、介護福祉士の専門性を追究できる。
- 4 介護教育における研究の意義を理解し、実践の中で研究的態度がとれる。

【教育内容】

※()内の時間数は、1時間=60分換算した時間数を表しています。

※既修得単位等認定の対象科目は、「当センターにおいて既に修得した科目(★)」、「大学・大学院において修得した科目(◎)」、「厚生労働省が認定した介護教員講習会において修得した科目(○)」となります。

分野	科目名 (必修)	時間	既修得単位等の認定科目			内容	ねらい
			★	◎	○		
基礎分野	ヒューマンサービス論 (必修)	2 (1.5)	✓	—	—	・ヒューマンサービスとその理念	ヒューマンサービスとしての介護を実践するために、基本理念を学ぶ。
	社会福祉学 (必修)	40 (30)	✓	✓	✓	・社会福祉の意義と理念 ・日本における社会福祉の成り立ち ・多職種連携とチームマネジメント	近年の社会の動向をふまえ、社会福祉の意義、理念、基盤となる社会保障制度について学ぶとともに、地域における社会福祉を理解する。
	倫理学 (必修)	40 (30)	✓	✓	✓	・倫理の概念 ・ヒューマンサービスとしての介護福祉士の専門性と倫理、「介護の倫理」・「職業倫理」・「生命倫理」	倫理の基本的な概念を理解し、介護専門職として求められる倫理について考察する。「介護の倫理」・「職業倫理」・「生命倫理」を踏まえて実践的に学ぶ。
	設定時間数 小計 82(61.5) [必修 82(61.5)]						
専門基礎分野	教育学 (必修)	30 (22.5)	✓	✓	✓	・教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等の関連性 ・教育の思想と歴史の変遷 ・教育の制度 ・教育の実践	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等のかかわりについて理解するとともに、教育の思想や歴史、制度、実践等教育に関する基礎的な理論について理解する。さらに、生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
	教育方法 (必修)	44 (33)	✓	✓	✓	・教育方法の基礎的理論と実践の歴史 ・教育方法の原理と実践技術 ・授業の目標と授業展開のあり方 ・具体的な指導案の書き方・作成 ・授業展開の実際	これからの社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法、教育技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を理解し、学んだことを介護福祉士養成教育にいかす態度と具体的な方法を身につける。
	教育心理 (必修)	30 (22.5)	✓	✓	✓	・発達の基礎知識及び発達と教育 ・学習の基本原則と代表的な学習理論 ・生涯発達における青年期の諸課題 ・特別な教育的ニーズの理解と支援	教育心理学の観点から、発達と教育の関係、学習活動を支える認知や動機づけのメカニズム、学習を促進する集団の相互作用を学ぶ。
	教育評価 (必修)	16 (12)	✓	✓	✓	・教育評価の意義と役割 ・教育評価の視点と評価の方法 ・学習評価の方法と留意点 ・評価から授業改善への展開	教育評価の概要(意義・目的等)や教育評価・学習評価の方法等について理解し、学んだことを介護福祉士養成教育にいかす態度と具体的な方法を身につける。
	設定時間数 小計 120(90) [必修 120(90)]						

分野	科目名 (必修)	時間	既修得単位等の 認定科目			内容	ねらい
			★	◎	○		
専門分野	介護福祉学 (必修)	40 (30)	✓	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 現代の介護問題と介護福祉士の存在意義 少子高齢社会と家族形態・家族機能の変化 時代が求める介護福祉士像と介護福祉士養成教育の変遷 介護福祉士の生活支援を支える人権・福祉理念 介護実践を支えるチームマネジメントと多職種連携・協働 地域を意識した生活支援の展開と地域包括ケア 	介護の歴史や介護問題の背景、介護福祉士に求められる社会的役割を確認するとともに、今日の介護福祉士養成教育の目指すべき内容や課題を考える。さらに、自己の介護福祉、介護福祉士養成教育に対する考えを深化させる。
	介護教育方法 (必修)	40 (30)	✓	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 介護教育の全体像 学習者の主体性を引き出す授業とは 教材研究の方法 授業設計と指導案の作成方法 模擬授業と授業改善の視点 授業評価 	各領域の目的、教育に含むべき事項、留意点等を理解し、介護教育の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解する。様々な学習指導理論を踏まえて授業場面を想定した授業設計を行い、科目や学生の状況に合わせて授業展開ができる。
	学生指導方法 (必修)	20 (15)	✓	—	—	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの基礎知識 多様な生活背景を持つ学生の理解 学生指導にいかす学生理解の視点 学生指導とカウンセリングの実際 学内外の関係者との協働・連携の視点 	学生を尊重し、学ぶ意欲や学生の成長を促す学生指導の基本を修得する。関係者と連携、協力しながら学生指導・カウンセリングをする重要性を理解し、その方法を修得する。
	介護総合演習及び 実習指導方法 (必修)	20 (15)	✓	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 介護総合演習の役割 介護福祉士養成課程における介護実習の位置づけ 介護実習への動機づけの方法 事例検討とカンファレンスの運営方法 実習指導者との連携 	実習の意義及び実習指導にあたる教員・実習指導者の役割を理解し、介護総合演習の目的と効果的な実習指導方法を学習する。
	介護過程の 指導方法 (必修)	20 (15)	✓	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 介護過程の意義と目的 介護過程の構成要素 ICF(国際生活機能分類)、ケアマネジメントとの関係 事例を通じた介護過程の展開 	介護過程は、介護福祉士の本質を具現化する過程である。質の高い介護を実践し、利用者が望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学習する。
	コミュニケーション 技術の指導 方法 (必修)	20 (15)	✓	—	—	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション技術の教育内容の役割、表現、工夫 コミュニケーション理論と実際 介護福祉士に求められるコミュニケーション 	個別の状況に応じたコミュニケーションを行う知識と技術を習得する介護福祉教育が行えるよう、コミュニケーション技術の教育内容を知り、教授する方法を学ぶ。

分野	科目名 (必修)	時間	既修得単位等 の認定科目			内容	ねらい
			★	◎	○		
	研究基礎と倫理 (必修)	40 (30)	✓	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉分野における研究と倫理 ・研究の意義、研究の成果と活用 ・研究の種類、方法、過程 ・研究計画の立案、実施 	介護教員として求められる研究の意義について理解し、研究の方法と種類、進め方等について習得する。
設定時間数 小計		200(150)	[必修 200(150)]				
設定時間数 小計		402(301.5)	[必修 402(301.5)]				

(多少変更することがあります。)